

令和2年度

政策提言書

白鷹町議会

令和2年度 政策提言

人口減少、少子高齢化、新型コロナウイルス感染症対策、自然災害等への対応策が求められる中、第6次総合計画に基づき、「人、そして地域がつながり 輝き続ける潤いのまち」づくりの実現に向け、併せて「まち・ひと・しごと創生」に邁進していく必要があります。

白鷹町議会として、令和元年度の決算審議や昨今の所管事務調査等を踏まえ、次の通り政策提言します。

急激な人口減少に歯止めをかけ、安心安全のまちづくり、魅力あるまちづくりについては特に、荒砥高校の存続、地域コミュニティの強化策、白鷹大橋開通後の西廻り幹線道路等の整備促進、移住・定住の推進、森林・林業再生のための緑の循環システムの構築等については、これまで同様推進されるよう提言し、加えて、本年度は、喫緊の解決・対応が課題となっている新型コロナウイルス感染症対策および7月豪雨の復旧復興等に特化して提言するものである。

記

提言1 新型コロナウイルス感染症対策について

提言2 災害対策について

令和2年11月25日

白鷹町長 佐藤 誠 七 殿

白鷹町議会議長 今野 正 明

提言1 新型コロナウイルス感染症対策について

全国的に猛威を振るう新型コロナウイルスにより、感染者は全国で累計12万人を超え、感染症対策として医療の確保と「新しい生活様式」の推進が求められている。また、落ち込んだ経済対策や「コロナ後」を見据えた対応について次のとおり提言する。

1. 白鷹町立病院は、新型コロナウイルス感染症等に対する医療体制確保の面からなくてはならない施設である。厳しい経営状況ではあるが町民の安心・安全のための拠り所となるよう引き続き支援に努めること。あわせて医療従事者と福祉施設職員の肉体的、精神的負担軽減に向けても支援すること。
2. 「新しい生活様式」の定着に向けての啓蒙を行いながら、県外からの帰省等を含めて来町しやすい環境づくりに努めること。また、様々な地域行事が制限・自粛することが地域コミュニティの希薄化につながらないよう対策を講じること。
3. GIGAスクール構想等により教育現場もデジタル化が浸透してきている。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としての遠隔授業等の多様な授業形態による教育の格差が出ないように努めること。
4. 新型コロナウイルス感染症禍の中、影響を受ける事業者に対し倒産・廃業防止のため経営回復に向けた各種支援策を講ずること。また、「新しい生活様式」に向けた事業への転換や新ビジネスに挑戦する業者への支援を講ずること。
5. 「新しい生活様式」に即した社会活動が求められる中で、会社から離れた場所で働くテレワークなど、働き方のありようにも変化が現れている。移住定住を促す機会と捉え、希望される方のさまざまなニーズを調査し、それに即した取り組みを検討すること。

提言2 災害対策について

7月に発生した豪雨災害では、多くの道路、河川、農業施設が被災し、町では、各コミュニティセンターに避難所を開設し避難者を受け入れた。

大規模地震を含め、異常気象による災害への対応について、次のとおり提言する。

1. 現在の災害時における町民への情報伝達手段の検証を十分に行いながら、災害時にリアルタイムで状況を伝えることのできる緊急情報サービスの提供に向けた環境整備を行うこと。また、十分な感染症拡大防止対策を講じながら、避難所でも情報伝達・収集できる整備を行うこと。
2. 白鷹町地域防災計画では、災害時においては、行政と地域住民、事業所などが自発的に協力し合いながら対応にあたることの重要性を表記している。計画の見直しとともに、わかりやすい運営マニュアル等の作成によりそれぞれの役割分担を明確にしなが、自主防災組織ごとの防災計画の作成を促すなどにより防災に対する町民の関心・理解を図ること。
3. 豪雨災害の箇所については毎回被災する箇所もあり、予防・減災の視点で現況復旧に加え改良復旧にも取り組めるように国・県に強い働きかけを行うこと。
4. 災害発生時に町内の道路の被害状況を把握するパトロール及び土砂撤去等の応急対応については、除雪を担当する業者が担うなど、迅速に対応できる体制づくりに取り組むこと。
5. 国道348号の路肩崩落や国道287号の冠水による通行止めが発生するなど、重要幹線道路が被災した。早期復旧について国県への働きかけを強めるとともに、重要課題である国道287号菖蒲、下山地内の早期完成、西廻り幹線道路の早期着工、国道348号の再整備についても要望活動を強化すること。
6. 農地等の災害復旧については、農繁期に向けて迅速に対応するとともに、農業が将来にわたり希望が持てる産業として成り立つため、新規就農者等農業の担い手育成・耕作放棄地の解消及び未然防止・有害鳥獣対策・耕畜連携対策等、農業関係団体と十分な連携を図り各種支援を充実すること。